

平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」における 今津中学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 25 年 4 月 24 日（水）に、3 年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- （1） 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2） 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- （3） 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・今津中学校では、3 年生 230 名

3 調査内容

（1）教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・数学 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・数学 B】
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

（2）児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大 阪 市 立 今 津 中 学 校

生徒数

230

平均正答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	70.7	58	59.6	36.1
大阪市	72.2	61.0	59.6	37.1
全国	76.4	67.4	63.7	41.5

平均無解答率（％）

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	4.2	4.5	6.4	21.2
大阪市	3.6	4.7	7.2	20.9
全国	2.4	2.8	5.3	16.7

結果の概要

平均正答率から本校は国語A・B・数学A・Bとも全国平均より5ポイントほど下回っていることが分かる。国語Bについては10ポイント近く下回っている。また、平均無回答率も全てにおいて全国平均より悪い結果となっている。言語活動が低調であり、言語能力の育成が急務であると考えられる。基本的な生活習慣・自尊感情・規範意識は、全国と同等かそれ以上の結果であり、で昨年より良くなっている。ただ、家庭学習・読書については昨年と同様低い結果となっており、引き続き課題である。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- ・これまでの取り組みの成果はまだ十分に出ていない。ただ、年度によって学年を構成する生徒の傾向に違いがあるため一概には言えない。
- ・学校質問紙から、学校として学力向上に向けた取り組みや指導方法の改善の取り組みが極めて不十分といわざるを得ない。授業公開を伴う校内研究授業は活発に行われているが、そのことが授業改善につながっていない。今後このことが取り組むべき大きな課題である。
- ・学力向上に向けた取り組みとしては、学校全体として授業規律の徹底が急務である。
- ・国語への関心等の低さと言語活動・読解力の低さが顕著である。学力向上のため、今年度から始めた言語能力の育成（漢検・読み語り・読書活動）の取り組みを引き続き行う。
- ・授業のあり方が教員による従来の知識伝達型の一斉授業のままであり、個に応じた指導方法の工夫と生徒が主体的に活動する授業形態を取り入れる必要がある。
- ・習熟度別少人数授業がより効果的に行われるよう見直しをする必要がある。
- ・家庭での生活習慣と学習習慣に大きな課題がある。学習において家庭との連携を強める工夫が必要である。

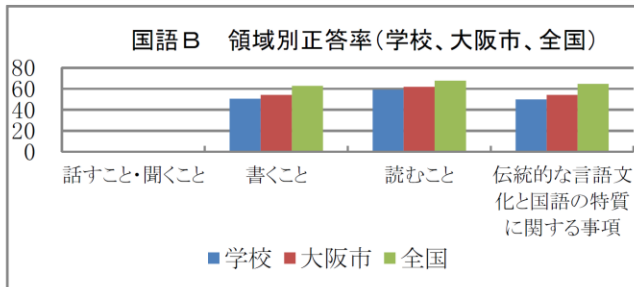
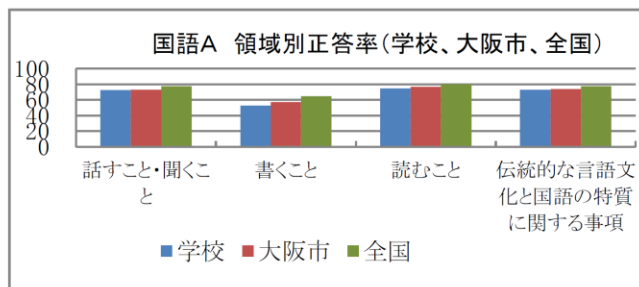
【国語】

結果の概要

A問題での平均正答率は70.7%、B問題での平均正答率は58.0%である。全ての領域において全国・大阪市の平均を下回っている。国語への関心と意欲が低く、それに伴って言語能力全般の知識と技能の低さが課題である。

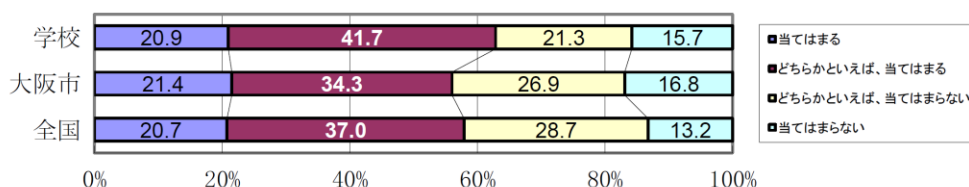
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	4	72.5	73.1	77.6
	書くこと	4	52.7	57.3	64.5
	読むこと	6	74.7	76.8	80.0
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	18	72.9	73.9	77.5

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	0	—	—	—
	書くこと	3	50.6	54.0	62.7
	読むこと	8	59.0	61.9	67.8
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	1	49.8	54.2	64.6

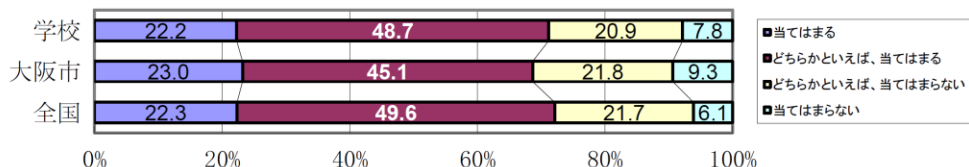


国語に関する「生徒質問紙」

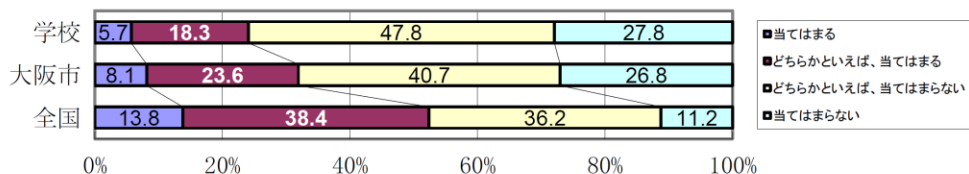
I 53 II 52 III 63
国語の勉強は好きですか



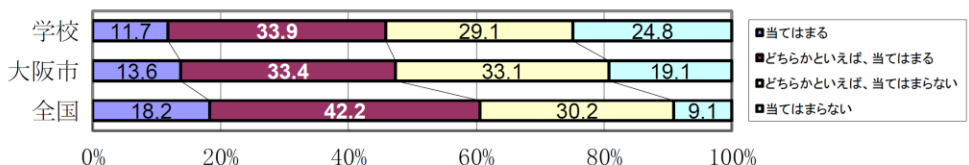
I 55 II 54 III 65
国語の授業の内容はよく分かりますか



I 58 II 57 III 68
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 70
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



成果と課題

授業については、概ねよく理解しまじめに取り組んでいる。ただ自分から読書や作文等の言語活動を意欲的に行うことはない。
授業において生徒が主体的に言語活動を行う取り組みを増やすことで、国語に関する関心・意欲を高める必要がある。

今後の取組

読書活動のさらなる推進(朝読書、元気アップボランティアによる図書室の開館)を行う。
校長戦略予算による漢字検定の取り組み(全学年、年2回の実施と勉強会、小学生の受検)と読み語り活動を継続して行い、地域全体での言語能力の育成する。

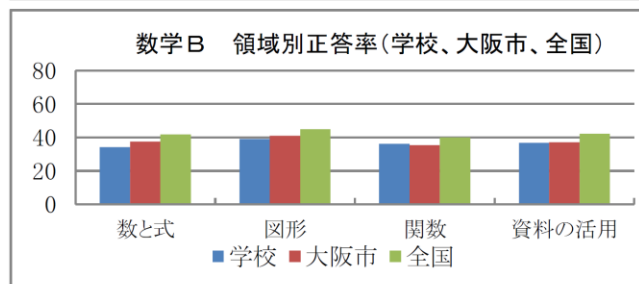
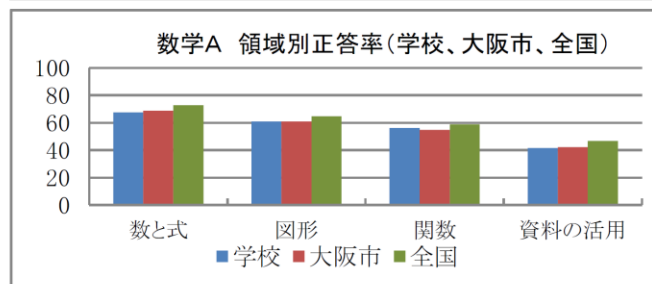
【数学】

結果の概要

A問題での平均正答率は59.6%、B問題での平均正答率は36.1%である。全ての領域において全国平均を下回っている。数学への関心と意欲はそれほど低いことはない。基本的な知識・理解が不十分であり、そのため少し問題の難易度が高く、応用的な問題になると正答率が大きく下がっている。

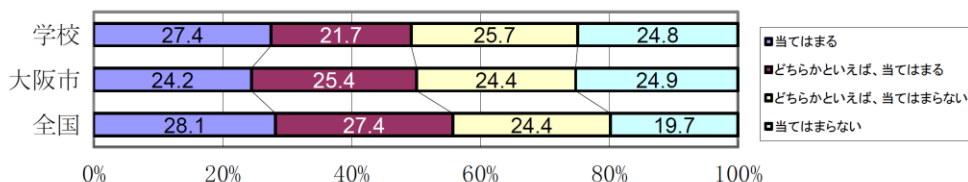
A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	11	67.6	68.6	72.7
	図形	12	60.9	60.8	64.6
	関数	9	56.1	54.7	58.7
	資料の活用	4	41.4	42.3	46.8

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と式	5	34.3	37.6	41.7
	図形	2	39.0	41.0	44.8
	関数	6	36.2	35.4	40.0
	資料の活用	3	36.8	37.1	42.2

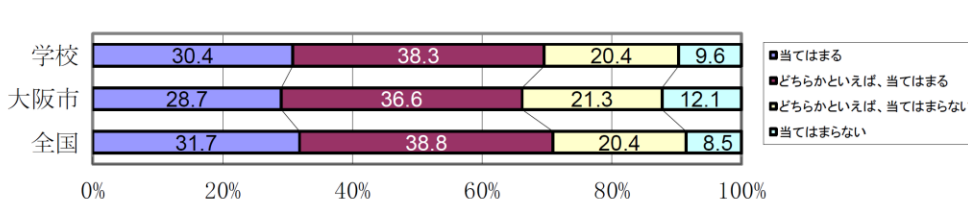


数学に関する「生徒質問紙」

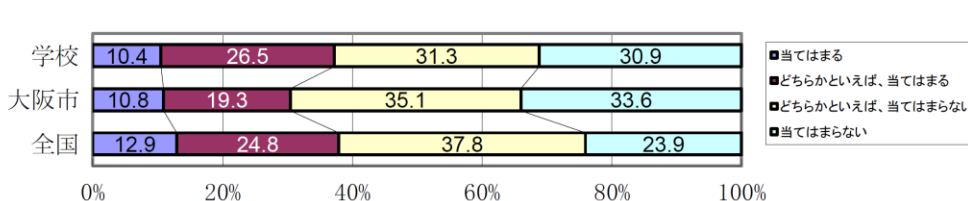
I 73 II 62 III 73
数学の勉強は好きですか



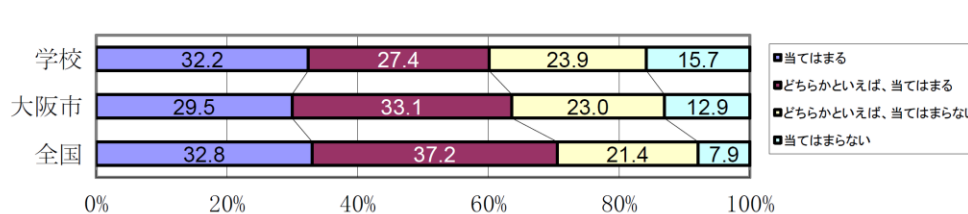
I 75 II 64 III 75
数学の授業の内容はよく分かりますか



I 78 II 67 III 78
数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 81
数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか



成果と課題

数学に関する「生徒質問紙」から、習熟度別授業による成果が出ていると思われる。数学的に表現や説明したり、理由を説明する問題の正答率は20%前後、無回答率は50%前後であり、数学においても言語能力の低さが影響していると考えられる。

今後の取組

生徒一人一人がどこで躓いているのかを把握し個別指導することで、基礎学力の定着を図る。数学の授業においても、数学的な考えを言語的に表現する活動を取り入れていく。習熟度別授業を充実させ、個に応じた指導をさらに工夫する。

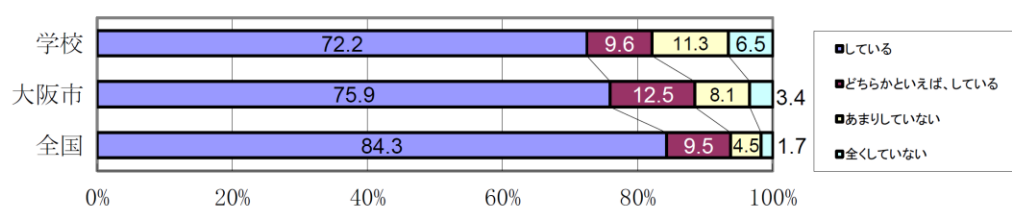
基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

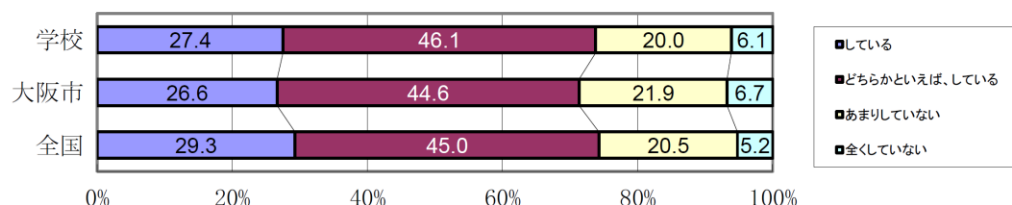
- ・就寝時間については、全国比も昨年度比も変わらない数値がでていますが、朝食を毎日食べている生徒の割合が昨年に比べ大きく減っている。課題の残る結果である。
- ・「自分にはよいところがあると思う」の項目では、24.3%と全国の数値を上まわり、昨年課題が残った項目であるので、取り組みの成果が現れているといえる。
- ・規範意識に関しては大阪市平均のポイントを上まわり、全国平均に近い数値である。これも昨年課題のあった項目であるので、成果が現れている。・質問Ⅱ25・27の項目で、全国平均を大きく下回る結果がでている。家庭学習の定着、特に授業の復習をする習慣がない生徒が多いことが課題である。

質問 番号	質問事項
----------	------

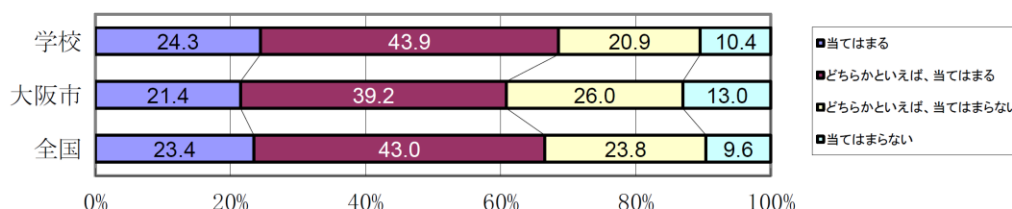
I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



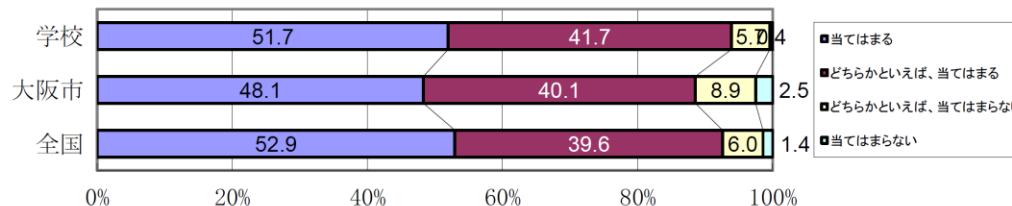
I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 45
学校の規則を守っていますか		



成果と課題

- ・道徳の授業や、ピアサポート活動を活用する取り組みが進み、本年度に関しては大きな成果が現れた。
- ・規範意識に関しても、取り組みの成果により、高まりつつある。
- ・基本的生活習慣については、朝食の摂取状況も含め、大きな課題が残った。

今後の取組

- ・自尊感情を高める取り組み、規範意識を高める取り組みは、継続して続けていかなければいけない。
- ・起床時間や就寝時間を早めていくことなど、基本的生活習慣の確立に向けて、また必ず朝食を摂るように働きかけることなど、生活指導や食育指導の取り組みを進めていかなければならない。

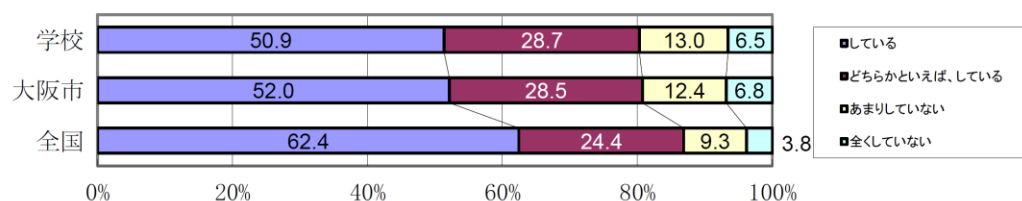
家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

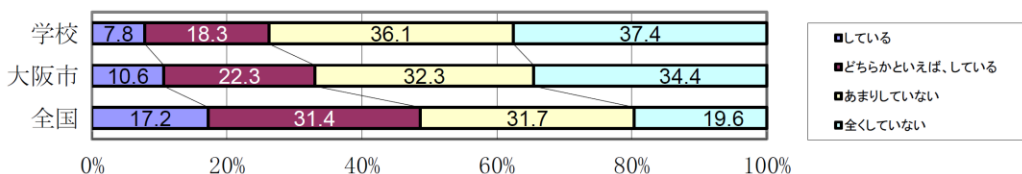
- ・質問Ⅱ 25・27の項目で、全国平均を大きく下回る結果がでている。家庭学習の定着、特に授業の復習をする習慣がない生徒が多いことが課題である。
- ・読書に関しては、ほぼ大阪市平均と同じといえるが、全国平均は大きく下回っている。昨年度に続く課題である。
- ・学びの質の質問は、全国を上回ったポイントであるが、授業の中で、生徒間で話し合う活動に関する質問は、大きく全国平均を下回り、課題が残る。

質問番号 質問事項

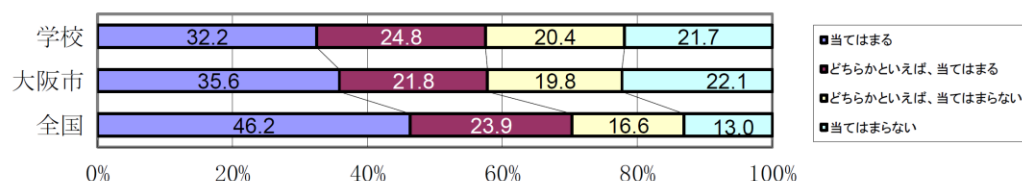
I 30 II 25 III 35
家で、学校の宿題をしていますか



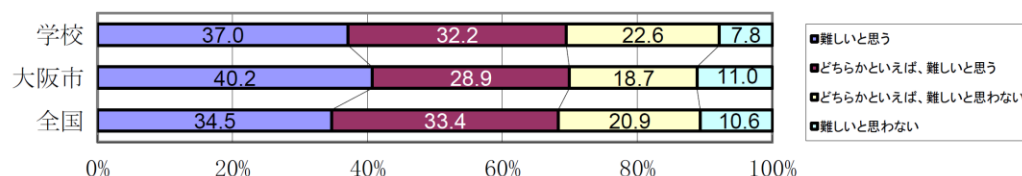
I 32 II 27 III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか



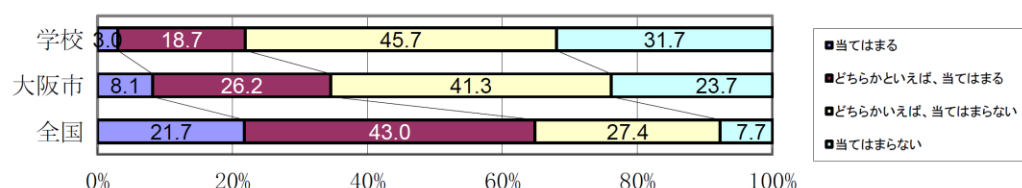
I 56 II 55 III 66
読書は好きですか



I 52 II 51 III 61
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 57
普段の授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていると思いますか



成果と課題

- ・読書活動推進の取り組みにより、生徒の読書離れは改善されつつあるが、まだまだ十分とはいえない
- ・学びの質という観点からみると、質問に対するポイントは、昨年度とかわりなく、横ばい状態である。
- ・言語力の育成に関するポイントは、昨年度同様低い数字である。授業形態の改善が急務である。

今後の取組

- ・読書活動に継続して取り組んでいく。
- ・校内研究授業を行い、ワークショップ等研究協議を通じて、授業改革に取り組み、言語活動の充実を図る授業形態を確立していく。
- ・家庭学習の定着に向けての取り組みを、全校で行っていく。